



➤ **知識と臨床を繋ぐ症例検討**

症例検討会③

～症例から明日に繋がるヒントを探す～

-
- 1. 分析チャートの記入**
 - 2. 問題点の仮説の立て方**
 - 3. 目標設定とは**
 - 4. 評価とアプローチの視点**
-

**講師：脳外臨床研究会
作業療法士 山本秀一郎**



目標設定

目標設定はカーナビゲーシヨンの法則

カーナビゲーシヨンは行きたい場所に行くための方法を教えてくれる。

- ①行きたい場所を入力する
- ②目的地までの道のりの提案
- ③自分の居場所がわかる（方向）
- ④目的地までの時間がわかる
- ⑤道を間違えた際に教えてくれる
- ⑥道を間違えた際に新しい提案



目標設定はカーナビゲーシヨンの法則

カーナビゲーシヨンは行きたい場所に行くための方法を教えてくれる。

- ①行きたい場所を入力する → 目的地がないと提案出来ない
- ②目的地までの道のりの提案 → 目標地点の提案が最重要
- ③自分の居場所がわかる（方向） → 自分の場所の理解が必要
- ④目的地までの時間がわかる → 予測時間で選択肢が変化する
- ⑤道を間違えた際に教えてくれる → 目的があるからFBできる
- ⑥道を間違えた際に新しい提案 → 間違えたり遅れた事は問題ではない

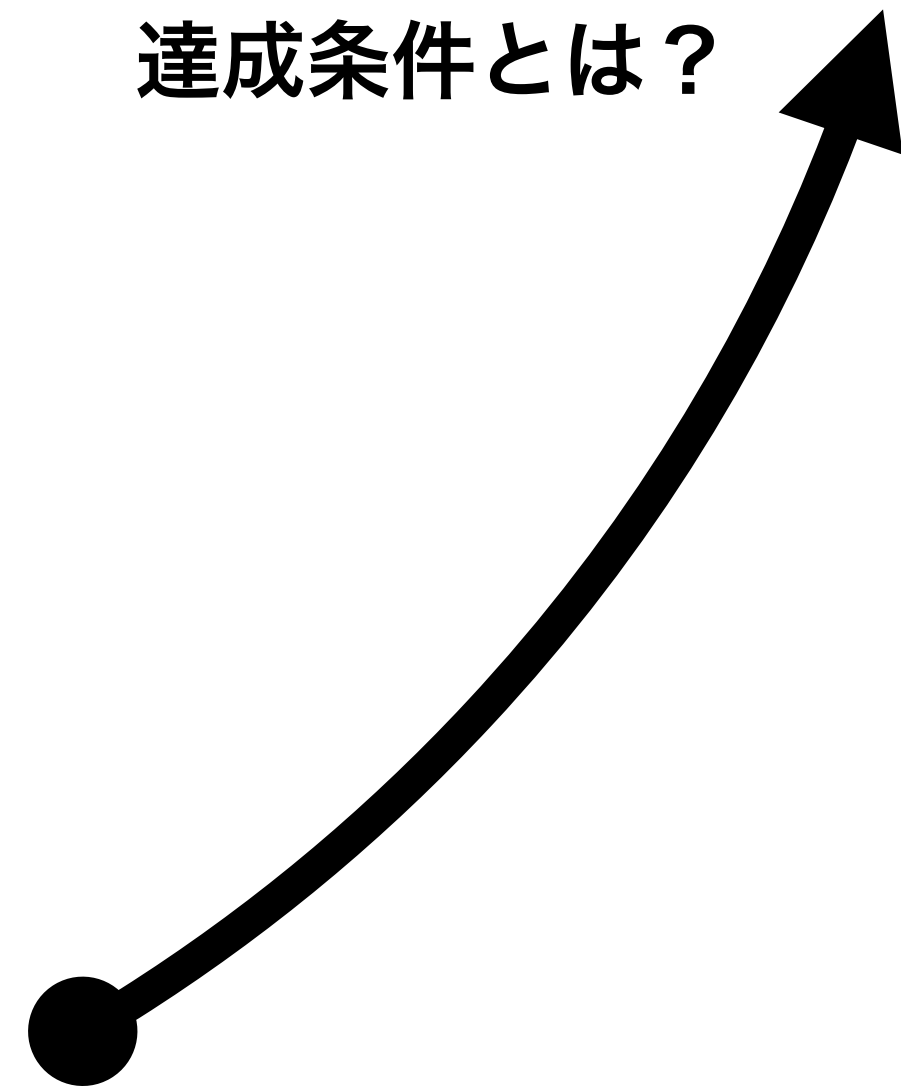
達成できる目標と出来ない目標

+ 達成しても意味のない目標

目標（予測・仮説）は、効果判定できる内容でなければならない。

達成できない目標
達成基準のない目標

達成条件とは？



立位バランス向上
安定性向上
介助量軽減

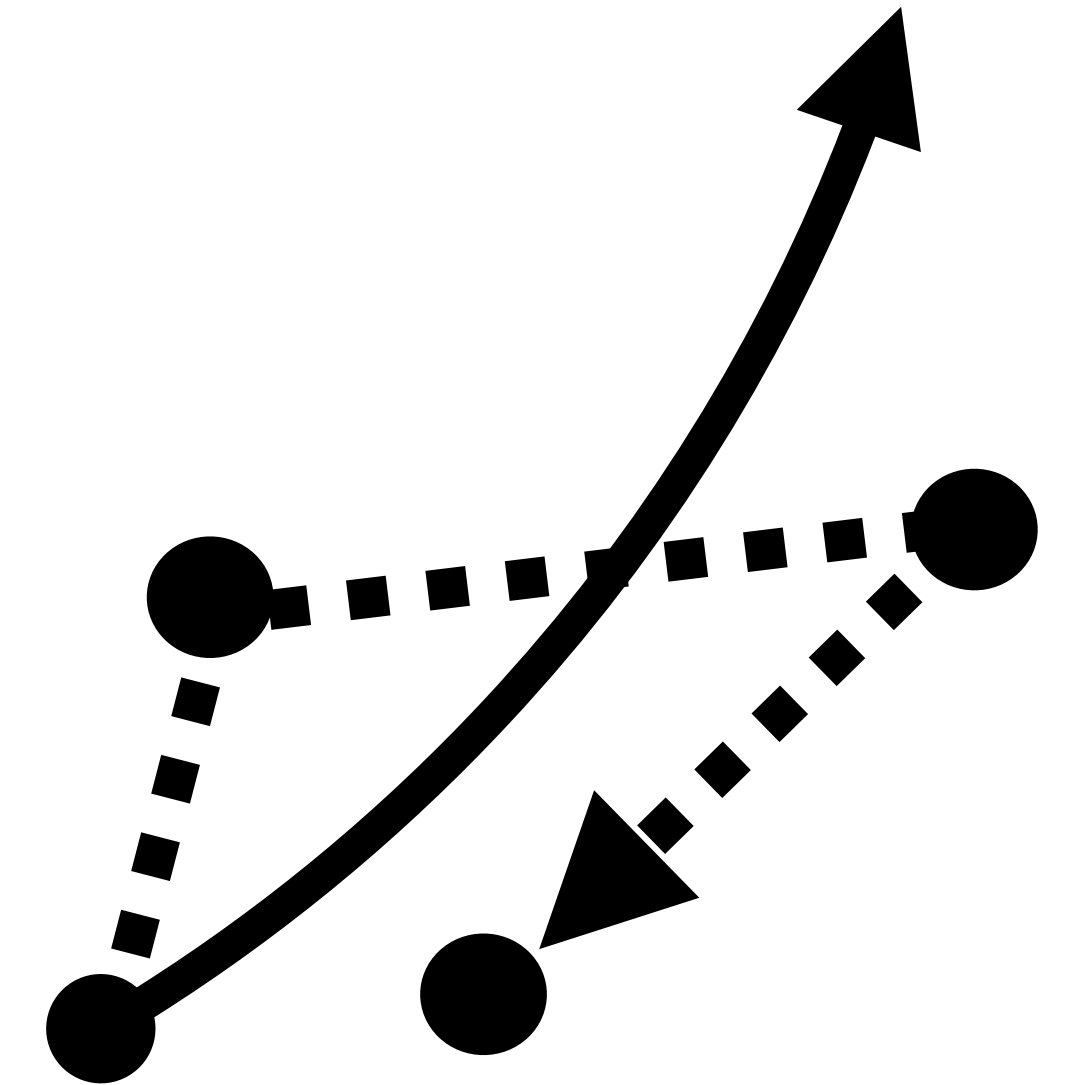
達成できる目標
達成基準のある目標

達成条件がある



麻痺側で3点つまみができる
麻痺側で鉛筆が持てる
麻痺側でA4の紙の塗り絵ができる

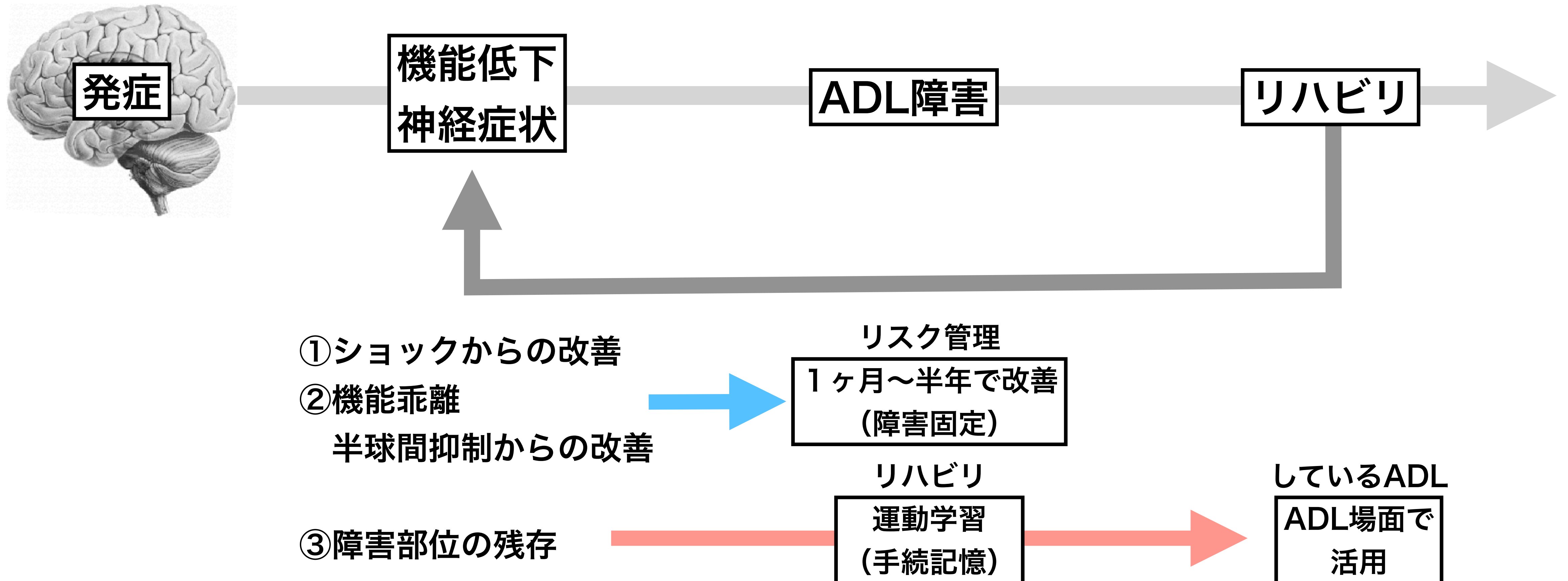
達成しても意味のない目標
目的や目標に繋がらない目標



自宅ENT
歩行の安定性向上
リーチ獲得

急性期・回復期リハビリ

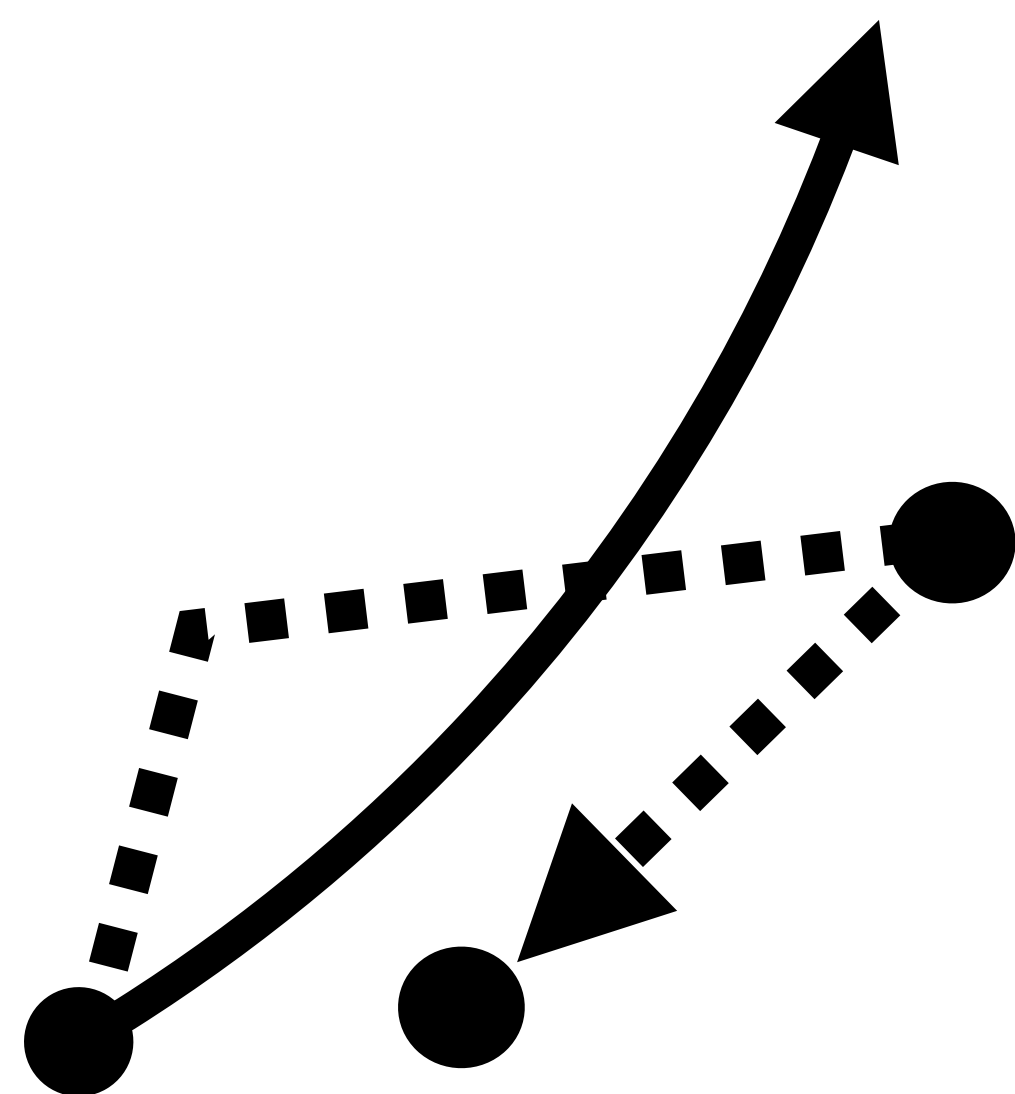
障害部位の神経症状に対して、リハビリ（運動学習・手続記憶）を行うことでADL障害を改善することで、再び適した状態を目指すこと



どんな機能から回復すべき

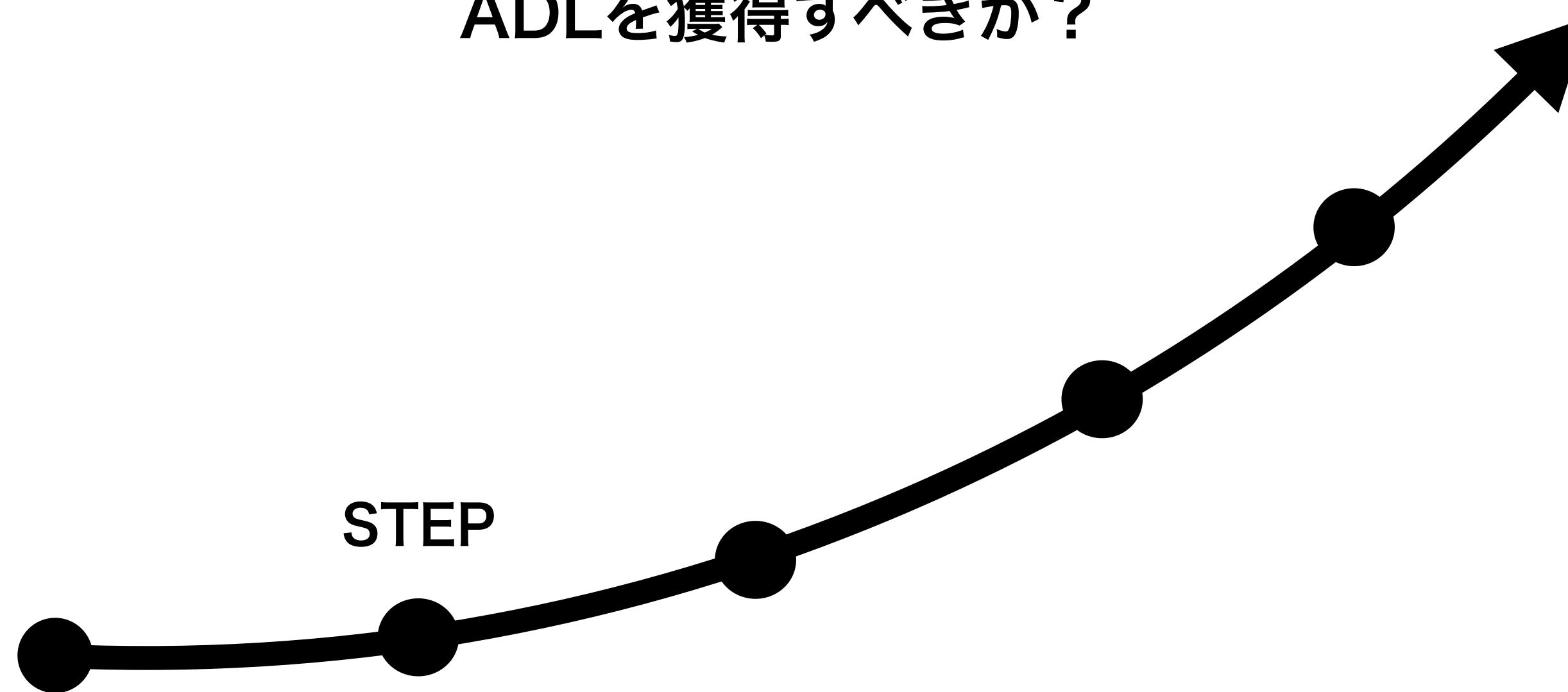
障害部位の神経症状に対して、リハビリ（運動学習・手続記憶）を行うことで
ADL障害を改善することで、再び適した状態を目指すこと

達成しても意味のない目標
目的や目標に繋がらない目標



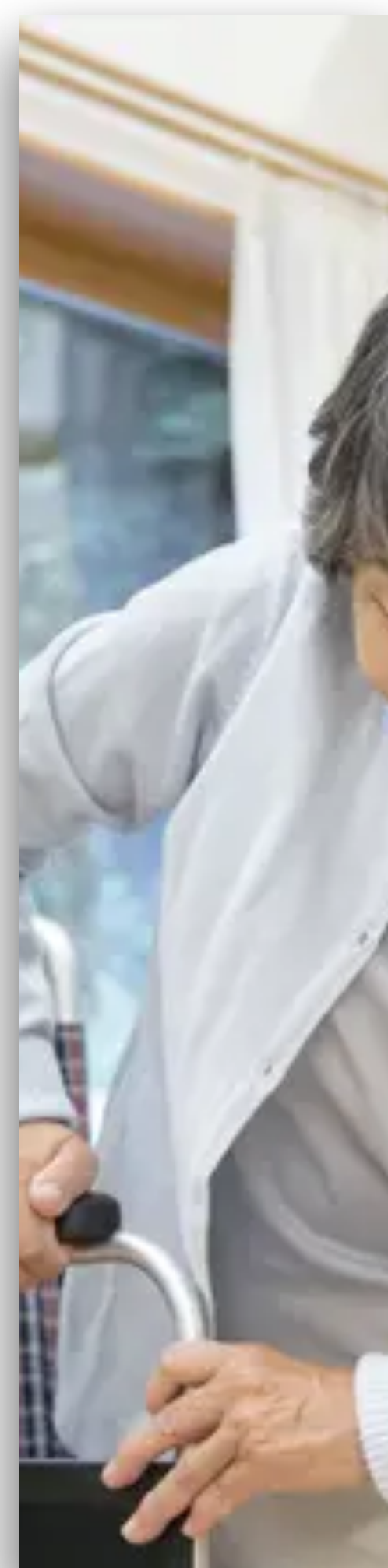
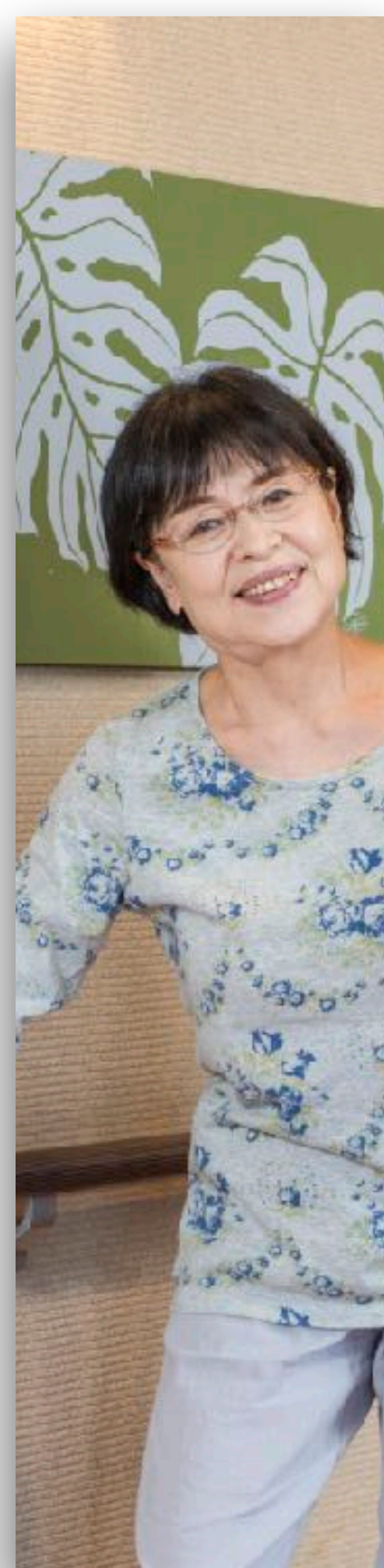
自宅ENT
歩行の安定性向上
リーチ獲得

どのようなステップを踏んで
ADLを獲得すべきか？



どんな機能から回復すべき

- ① 座位 ② 食事 ③ 整容 ④ 立ち上がり ⑤ 立位 ⑥ 移乗 ⑦ 歩行 ⑧ トイレ自立 ⑨ 屋外歩行

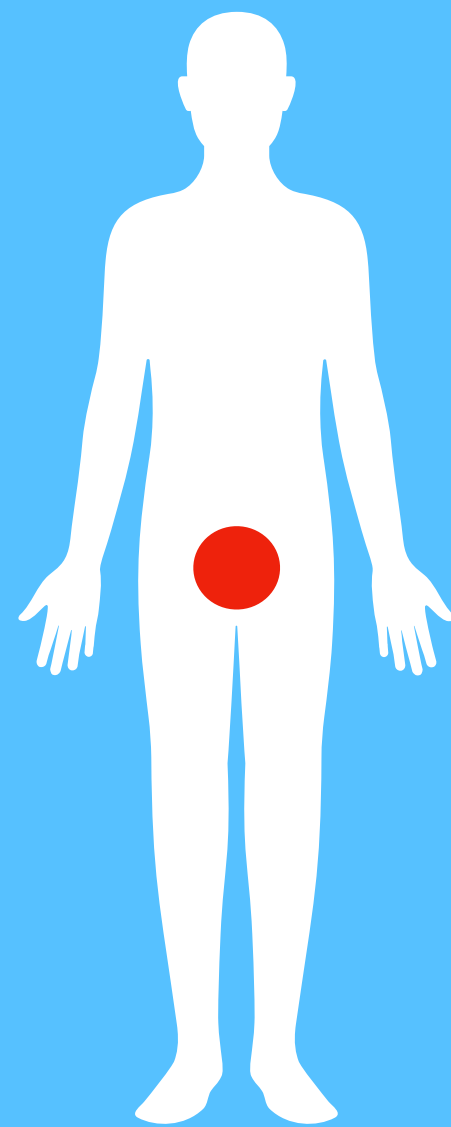


自宅退院

どんな機能から回復すべき

見るべき機能には大きく3つある

姿勢コントロール



バランス能力

支持基底面に
重心をとどめる能力

筋緊張コントロール

重心を上げたり
下げてりする能力

運動コントロール



随意運動・反射抑制

支持基底面を
変更する能力

随意運動・協調性運動

物品をコントロール
する能力

高次脳機能

感覚・注意機能

知覚する能力

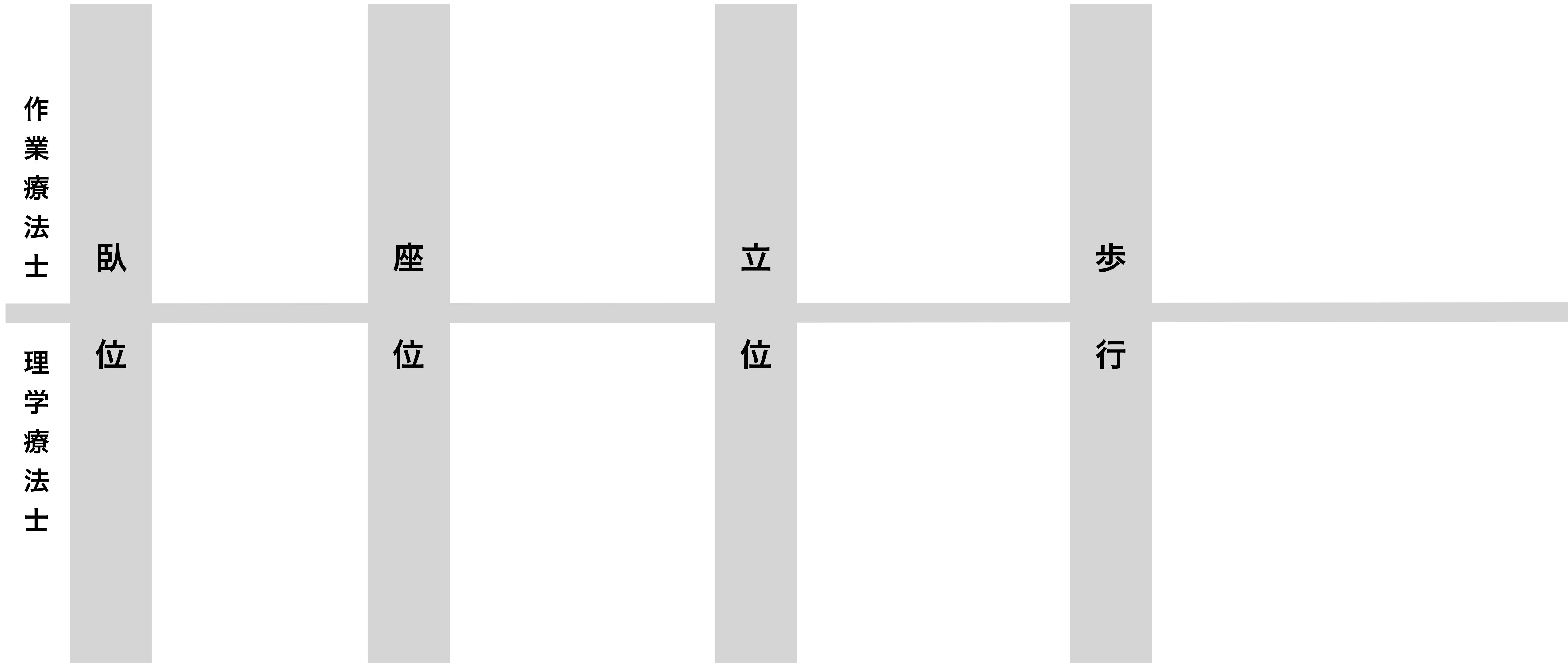
高次脳機能(頭頂葉・側頭葉)

認知(判断)
する能力

前頭葉機能

行動抑制する能力

どんな機能から回復すべき



どんな機能から回復すべき

作業療法士

理学療法士

臥位

ヘッドアップ

寝返り

上肢挙上

起き上がり

<体幹>

座位

端座位

車椅子駆動

立ち上がり

<股関節>

立位

ステップ

移乗

トイレ動作

<膝関節>

歩行

トイレ移動

入浴

段差昇降

屋外歩行

洗濯

買い物

<足関節>

<片手動作>

<両手動作>

食事
整容
更衣
清拭

→

食事
整容
更衣
清拭

物品操作

ペットボトル

洗濯物

ハサミ

書字

調理

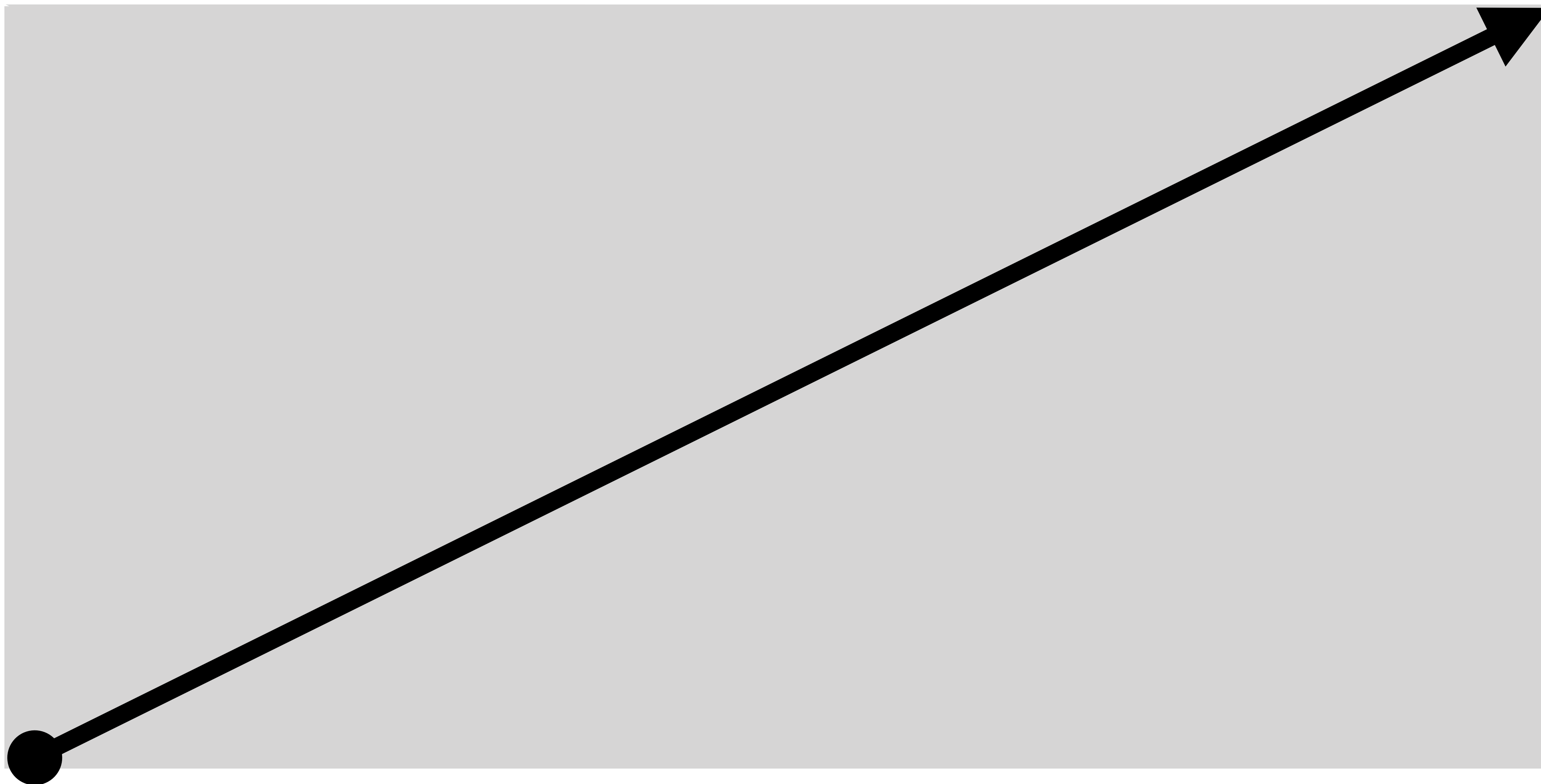
化粧

アイロン

パソコン

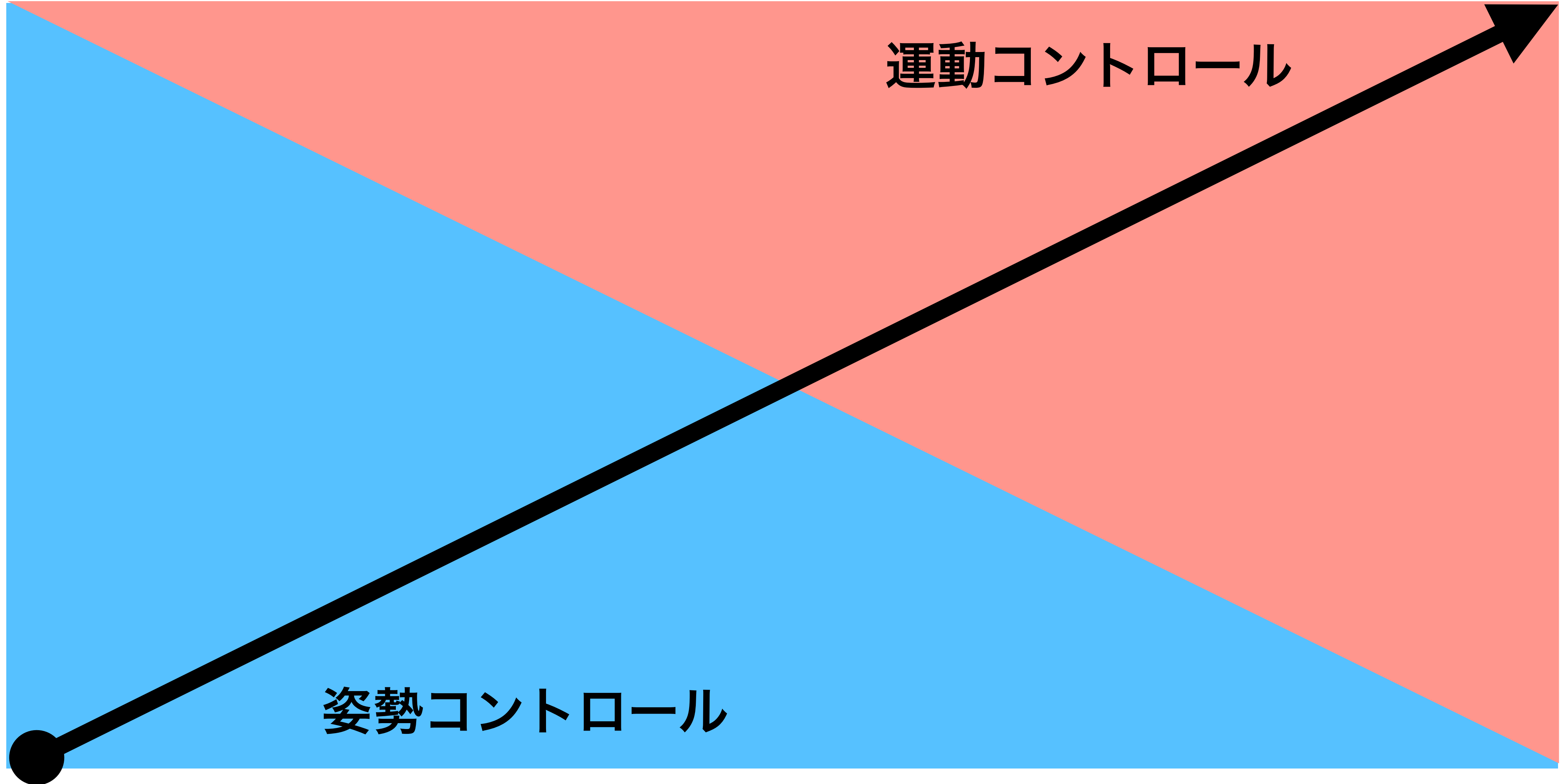
予後を考える

再び適した状態

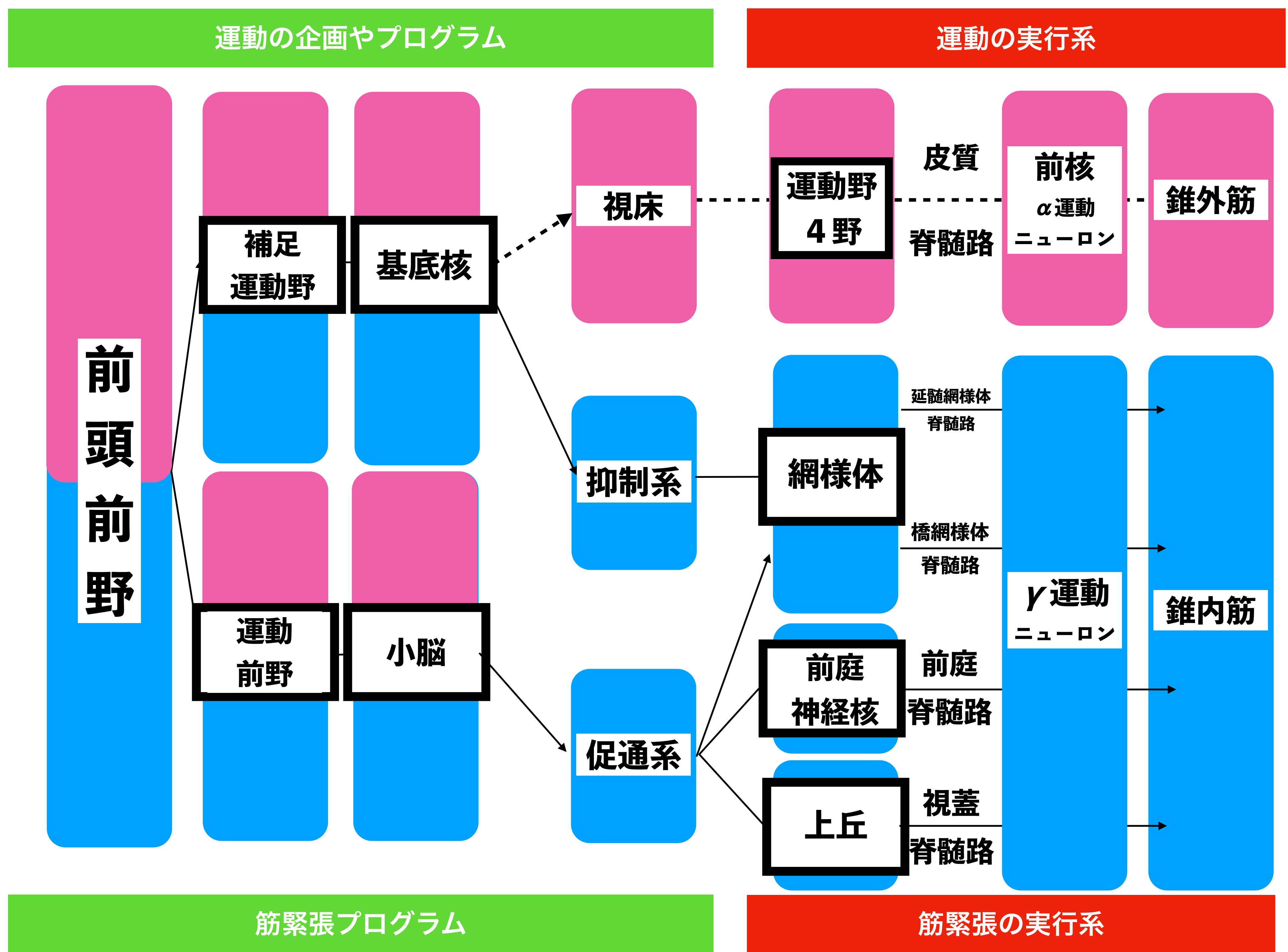
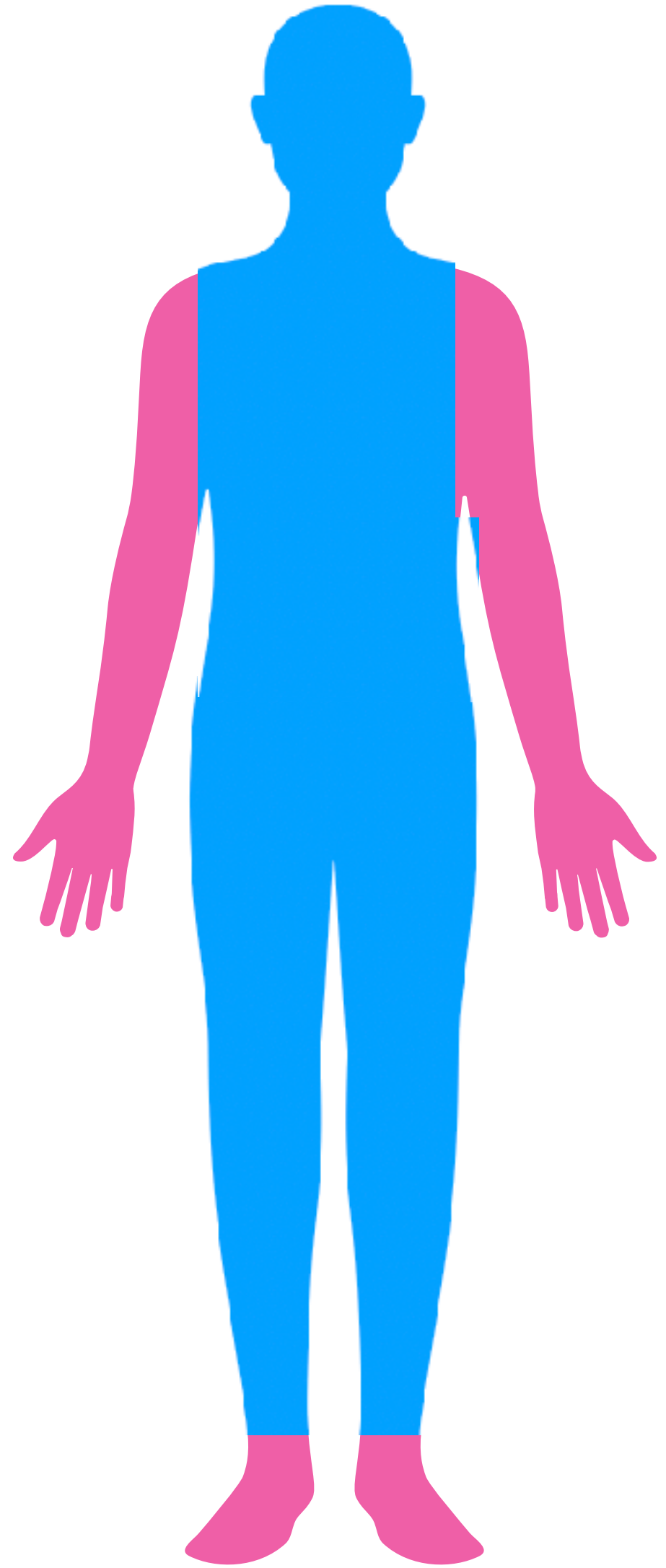


予後を考える

再び適した状態



随意運動を 管理する神経機構



モーターコントロール

知覚

認知

活動

感覚

知覚化

解釈・認知

戦略・計画

起動

実行

末梢感覚
受容器

感覚障害

視床
小脳
体性感
覚野

知覚障害

頭頂葉
後頭葉
側頭葉
高次感覚野

高次脳機能障害
認知・行為

前頭前野
連合葉

補足
運動野
運動前野
基底核
小脳

動作障害

一次
運動野
錐体路

運動障害
麻痺
筋緊張

筋
関節

運動障害
筋力低下
関節可動域



じゃあどうやって獲得するの？

➤ 1時間でわかるADL動作分析

臥位姿勢を考える

～良い臥位と良くない臥位を考える～

1. 臥位とは
2. 臥位の種類とは
3. 正常な臥位
4. 臨床での評価の視点

日時：2023年1月13日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



➤ 1時間でわかるADL動作分析

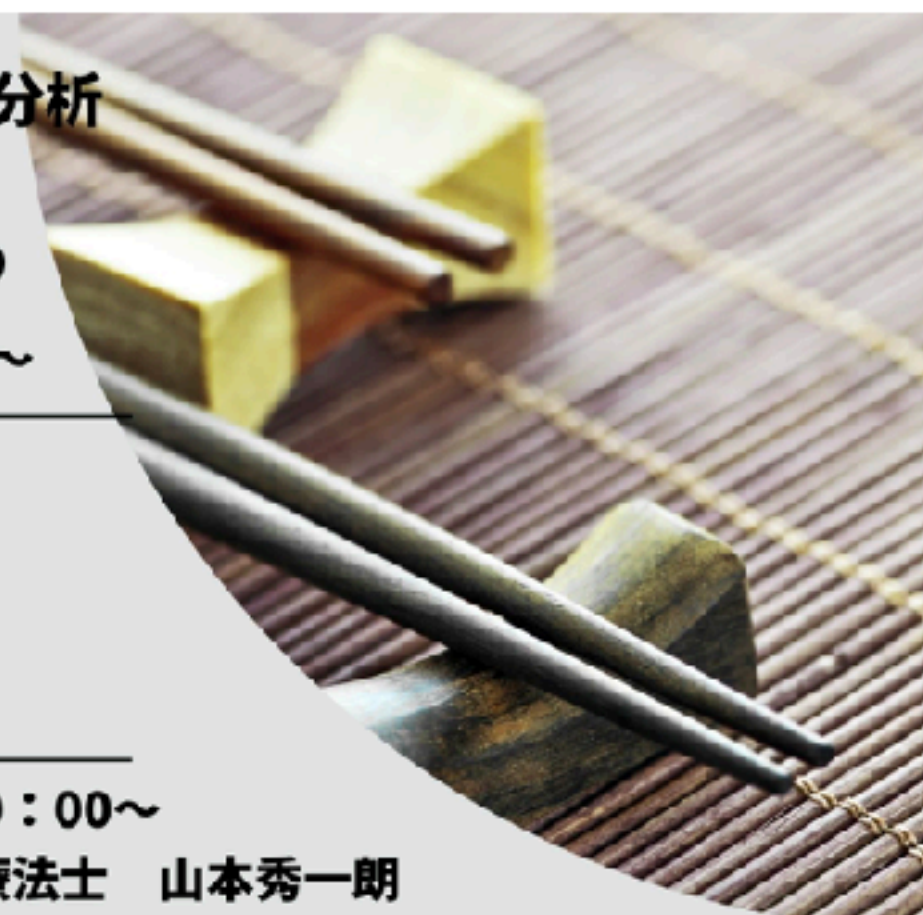
箸操作を考える

～3点つまみと手指の機能～

1. 箸とは
2. 箸の役割
3. 箸操作と手指の役割
4. 臨床での評価の視点

日時：2023年2月9日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



➤ 1時間でわかるADL動作分析

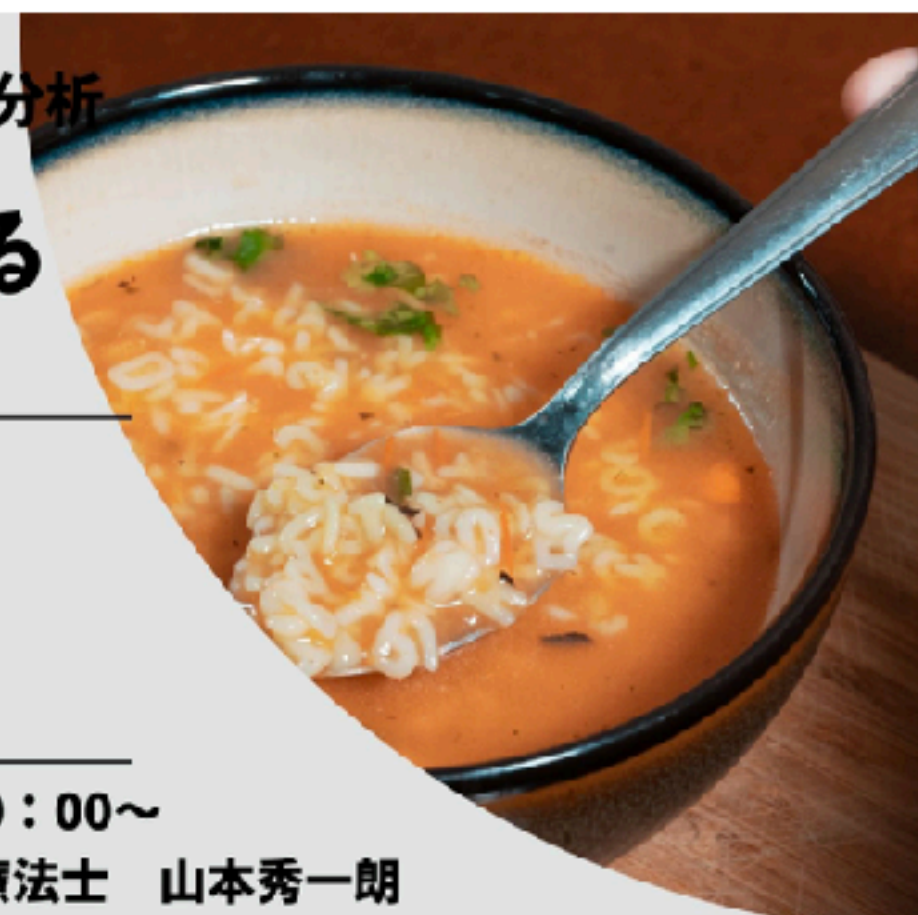
スプーンを考える

～摂食動作のスタート～

1. スプーンやフォークとは
2. スプーン・フォークの役割
3. スプーン操作と手指の役割
4. 臨床での評価の視点

日時：2023年3月8日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



➤ 1時間でわかるADL動作分析

トイレ動作に必要な 下衣の上げ下げ

～トイレ自立に向けて～

1. トイレ動作とは
2. 下衣の種類
3. 下衣の上げ下げに必要な要素
4. 臨床での評価の視点

日時：2023年5月10日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



➤ 1時間でわかるADL動作分析

トイレ動作に 必要なステップ

～安全にトイレ移乗するために～

1. トイレ動作とは
2. トイレの種類
3. トイレに必要なステップ
4. 臨床での評価の視点

日時：2023年4月12日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



➤ 1時間でわかるADL動作分析

起き上がり動作に ついて考える

～ベッドから起き上がるために～

1. 起き上がり動作とは
2. 起き上がりの種類
3. 起き上がり動作の動作分析
4. 臨床での評価の視点

日時：2023年6月14日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



目標設定はカーナビゲーシヨンの法則

カーナビゲーシヨンは行きたい場所に行くための方法を教えてくれる。

- ①行きたい場所を入力する → 目的地がないと提案出来ない
- ②目的地までの道のりの提案 → 目標地点の提案が最重要
- ③自分の居場所がわかる（方向） → 自分の場所の理解が必要
- ④目的地までの時間がわかる → 予測時間で選択肢が変化する
- ⑤道を間違えた際に教えてくれる → 目的があるからFBできる
- ⑥道を間違えた際に新しい提案 → 間違えたり遅れた事は問題ではない

どんな機能から回復すべき

作業療法士

理学療法士

臥位

ヘッドアップ

寝返り

上肢挙上

起き上がり

<体幹>

座位

端座位

車椅子駆動

立ち上がり

<片手動作>

食事
整容
更衣
清拭

→

<両手動作>

食事
整容
更衣
清拭

物品操作

ペットボトル

洗濯物

ハサミ

書字

調理

化粧

アイロン

パソコン

<股関節>

立位

ステップ

移乗

トイレ動作

<膝関節>

歩行

トイレ移動

入浴

段差昇降

屋外歩行

洗濯

買い物

<足関節>